

石垣の謎

史跡 備中松山城跡

備中松山城の大手門跡にたどり着くと、そり立つ岩盤を巧みに利用して築かれた石垣の見事さに眼を奪われます。この城の見所ともなっているこうした石垣は、いつ、だれが築いたものなのでしょう。

大手門付近の石垣



天正三年（一五七五）、三村氏を滅ぼした毛利氏は、備中支配の拠点としてこの城の整備を行います。慶長一三年（一六〇八）、小堀遠州が城修復の許可を得るために幕府へ提出した絵図には、崩れてはいるものの現在と同じ石垣の姿が描かれており、毛利氏が整備した城の様子がうかがわれます。ところが最近の研究成果によると、毛利氏には広島城を築く慶長四年（一五九九）以前に高石垣をもつ城はなく、前線基地の一つにすぎないこの城に、

このような石垣を築き上げることであったかどうか疑問が出されているのです。

それでは、小堀遠州が作成した絵図に石垣が描かれているのはなぜか。後に普請巧者として知られるようになる遠州にとって、備中松山城ははじめて預かる城であり、その修築にはひとときわ情熱をもって臨んだに違いありません。



わずかに残る小堀遠州の石垣

そのため、新規の築城を警戒する幕府をはばかり、あたかも崩れた石垣の修理であるかのように届け出たのではないかと言うのです。

しかし残念ながら、この説が正しいのかどうか結論を下すことができません。なぜなら現在残る石垣は、天和三年（一六八三）水谷勝宗によって築き直されたもので、それ以前の石垣はほとんど残っていないのです。

備中松山城の石垣は、今もこうした謎を秘めたまま、三〇〇年前と変わらない姿でたたずんでいます。

（文・社会教育課文化係長 亀山行雄）

編集と発行（毎月15日発行）高梁市総務部企画課

〒716-8501 岡山県高梁市松原通2043 電話0866(21)0210 ホームページアドレス <http://www.city.takahashi.okayama.jp/>



この印刷の一部には水質保全に有効な水なし印刷方式を採用しています。



環境にやさしい大豆油インキを使用しています。



古紙パルプ配合率100%再生紙を使用しています。